

## 在シドニー総領事交流録 第11回

### ニューサウスウェールズ (NSW) 州総督と日本の関係

2月24日

2026年最初の交流録となります。皆様、遅ればせながら、本年もよろしくお願い申し上げます。

さて、今年最初の話題として、ニューサウスウェールズ (NSW) 州総督と日本の関係について取り上げてみたいと思います。

現在の NSW 州総督はマーガレット・ビーズリー閣下で、2019年に第39代総督に就任されました。

総督は、国王の代理であり、州を代表していることから、シドニーにいる各国総領事は着任して総督を表敬します。私は、2024年10月に当地に着任後間もなく表敬しました。

総督は、各国の総領事館が開催する様々なイベントにご出席され、その際にはスピーチをされることが多いですが、歴史への造詣が深く、各国と NSW 州との間の歴史を掘り下げられるので大変勉強になります。例えば、日本との関係で言えば、1942年5月31日に起きたシドニー湾での日本軍特殊潜航艇による連合軍艦船の撃沈事件の慰霊祭が毎年当地で行われますが、昨年の同慰霊祭では、総督は、撃沈が偶々そのタイミングで起きた訳ではなく、事前に日本軍側が周到な偵察を行っていたとして、偵察飛行士の勇敢な行動に触れられた箇所は、とりわけ印象に残りました。



マーガレット・ビーズリー NSW 州総督 (2025年6月)

もちろん総督は、領事団イベント以外にも沢山の行事を主催され、総督府HPの Vice Regal Program を見ると、そのご多忙さがよく分かります。そうしたご多忙の合間を縫う形で、昨年12月7日～9日には、ご主人のデニス・ウィルソン氏とご一緒に東京をご訪問されました。

東京では、NSW 州が1984年以来東京都と姉妹都市であることから、総督ご夫妻は小池百合子東京都知事と会談されています。小池知事は、2024年2月に姉妹都市提携40周年記念のためシドニーに来訪されており、総督は、それ以来の再会を楽しめました。



ビーズリーご夫妻と小池百合子東京都知事（2025年12月）

※小池都知事の両側がご夫妻

総督ご夫妻は、日本大学の林真理子理事長にも面会されました。これは、日本大学がニューカッスル大学と戦略的パートナーシップを通じた協力を目指した覚え書きを締結し、ニューカッスルの文化遺産である旧裁判所庁舎を購入して、2021年9月にキャンパスを開いたことが背景にあり、日本とNSW州の絆がシドニーだけに留まらない一例です。

（この関係でもう一つ例を挙げると、カウラ市で2024年8月に行われたカウラ捕虜収容所脱走事件80周年慰霊際にビーズリー総督がご出席されています。）

総督ご夫妻は、この他に、日本との交流を深めるべく、シドニーと東京を結ぶ直行便を運行する航空会社の幹部の方々とも懇談され、豪州から日本への訪問者が日本から豪州への訪問者を大きく上回る現状を踏まえ、より多くの日本の旅行者にいかにかシドニーに足を運んで貰うかをご相談されたほか、NSW州に本拠を構える人工内耳メーカーのコクレア社とも意見交換された由です。

このコクレア社について少しご紹介すると、シドニーのマッコリー大学に本社を置く、人工内耳・骨伝導補聴器の製造・販売を行う世界市場シェア60%超を占める企業です。日本の難聴対策推進議員連盟とも緊密に連携をしており、私も昨年5月にコクレア社を訪問する機会がありました。その際の説明では、最新のインプラント式人工聴覚器は豪州で製造しているとのことで、出生後3歳までにインプラント手術をすれば聴力及び発話力が健常者に近いレベルに伸ばすことができるとの研究結果がある由です。さらに、シドニーには、インプラント手術後に会話訓練をするシェバード・センターもあり、非常に対応が進んでいる印象を受けました。豪州では3歳以下の重度聴覚障害児のインプラント使用率は99%にも

達するとのことで、コクレア社は、子供のインプラント使用率がまだ 50 余%の日本は市場拡大のニーズが大きいと考えているとのことでした。また、高齢者の方がインプラントを装着することで痴呆症の予防等にも役立つとのことで、日本での潜在的ニーズの大きさを感じました。



コクレア社にて (2025 年 5 月)

今回の訪日を踏まえ、そのご感想を承りたく、総督ご夫妻を先月末に公邸にお招きしました。普段はお忙しいので、こうしたご招待には応じて頂けないのですが、訪日の印象がまだ新しかったのでご来訪いただけたのだと思います。

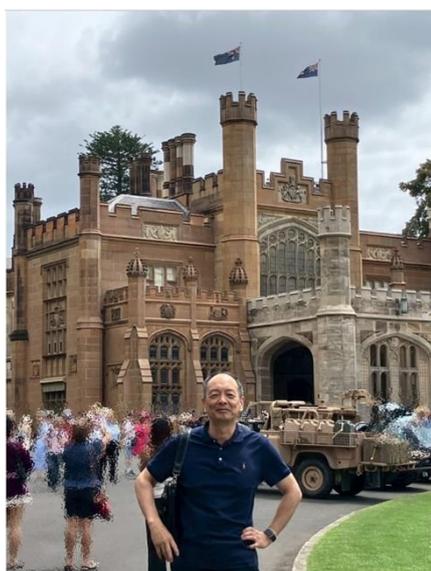
ご夫妻ともに、訪日を堪能されたご様子で、公邸でのやりとりを詳らかにするのは礼儀に反しますので控えますが、一つだけご紹介をすると、いかに日本からシドニーに来られる訪問客を増やすかということで、私からは円が同ドルに対してもう少し高くなって欲しいと役に立たないことを冒頭申し上げたのですが、その上でということで、NSW 州の魅力をアピール色々な視点からアピールすべく、意見交換しました。



ご夫妻の公邸ご来訪時 (2026 年 1 月)

余談ですが、公邸にお越し頂く直前の1月26日のオーストラリア・デーに、総督のお住まい兼執務場所である Government House がオープンハウスされましたので、総督邸を視察しました。

総督邸は、オペラ・ハウスの直ぐ隣の綺麗な公園に建つ荘厳な竹まいのお屋敷で、中の調度品もすばらしく、とりわけダイニング・テーブルは見事でした。こうしたオープンハウスは大抵の金曜日と週末に行われ、毎月第一日曜日には特別ジャズ公演も行われ、また、オーストラリア・デーや国王誕生日の週末には大規模イベントも開催されているとのことで（詳細は総督府 HP ([Visit us - Governor of New South Wales](#)) でご確認ください)、NSW 州民の方々との距離の近さを実感しました。



Government House のオープンハウスにて（2026年1月）

また、今回のオープンハウスの際には、この1月20日にお亡くなりになられたマリー・バシール第37代元総督のご遺影も飾られておりました。バシール元総督は、2011年の東日本大震災の際に被災された方々に対し励ましの温かいお言葉を下さり、当館開催の一周年慰霊式典にもご参列いただくなど、日本との関係に非常に意を用いていただきました。この場を借りて、心より哀悼の意を表したいと思います。

今年は日豪友好協力基本条約署名から50年に当たります。NSW州は、豪州最大の都市シドニーを擁しており、日本からの直行便も多いことから、豪州の玄関口と言えます。そうしたNSW州と日本との友好関係をさらに深めるべく、総督のご理解・ご支持を一層頂きながら、総領事としての活動をして参ります。本年も、よろしくお願い申し上げます。